資料３

岩手成長戦略（素案）の概要

令和８年11月
岩 手 県

1　策定の趣旨

策定の背景

国の新たな成長政策

- 国内投資を起点とする成長への転換
- 危機管理投資と成長投資を進め、ＡＸを重視
- 17の戦略分野へ投資するとともに、地方へ大規模投資を呼び込む「強い地方経済の構築」を重視

岩手の強み

- 北上川バレーを中心とする高度なものづくりの集積
- 広大な農地や多様な森林資源、三陸海岸等の地域資源と、食料供給や県民生活を支える幅広い産業
- ものづくり・農林水産業・伝統工芸等の現場で、創意工夫を重ね、学び成長し続ける人の力

目指す姿

本県の産業基盤と地域資源を生かして東京圏を上回る産業・経済の成長を実現し、岩手で働く人の所得や学び、働きがいとともに、県民の暮らしが向上していく**「人と産業がともに成長する岩手」**

計画期間

令和９年度～令和18年度（10年間）

2　「人」を重視する５つの基本的視点

「人と産業がともに成長する岩手」の実現に向けた、
「人」を重視する５つの基本的視点

収入

**産業の成長を
働く人の所得へ**

産業の成長を、賃金の上昇と良質な雇用の創出・維持につなげる。

サステナビリティ

**資源と産業を
次の世代へ**

自然や地域資源を守りながら生かし、地域の産業、仕事、暮らしを次の世代へつなぐ。

学びと成長

**仕事を通じた
学びと成長へ**

働く中で知識と技能を身に付け、自らの可能性を広げ、個人の成長と産業の高度化を支える。

ウェルビーイング

**働くことを通じた
一人ひとりの幸福を**

一人ひとりが尊重され、生活と仕事の調和の下で働きがいを感じられる環境をつくる。

生活基盤の安全保障

**生活の基盤を守り
安全・安心な地域を**

平時も危機時も、県民の生命と暮らしに必要な基盤を安定的に確保する。

**単に生産額の多寡などでは測れない、県民の暮らしと雇用を支える
岩手としての「成長分野」を選定**

3　成長分野選定の考え方

➤ **「日本成長戦略」の17の戦略分野をベース**に、県内総生産や就業者数等の**データも活用**し、**本県への適応を検証。**

➤ **「人」を重視する５つの基本的視点**を踏まえ、単に生産額の多寡などでは測れない、**県民の暮らしと雇用を支える分野も選定。**

使用するデータ

県内総生産・就業者数
経済の規模と推移
※ 県内の生産活動で新たに生み出された価値の合計と、働く人の数

修正特化係数
全国と比べた得意度
※ 生産の比重を全国と比べた値。１を超えると全国より得意な産業

純移輸出額
県外から稼ぐ力
※ 県外への販売額－県外からの購入額。プラスなら県外から稼ぐ産業

付加価値構成比・労働生産性
経済での比重と１人当たりの稼ぐ力
※ 産業区分ごとに占める割合と、働く人１人当たりが生み出す価値

雇用者所得構成比
働く人の所得を支える度合い
※ 県内で働く人の所得全体のうち、その産業が占める割合

※ このほか、地域経済循環の考え方を基に、県内供給の重要性も考慮。

▼

データから導いた成長分野の考え方（例）

県外から稼ぐ「強み」
全国と比べて得意で、県外から所得を獲得している産業

例　農林水産業、ものづくり

県内供給の「伸びしろ」
県外から調達している財・サービスを、県内企業が担う余地が大きい産業

例　ＩＴ、再生可能エネルギー

暮らしと雇用の「支え」
県民の暮らしと多くの働く人の所得を支え、生産性向上の効果も大きい産業

例　建設、医療・福祉、教育

※ データだけでは測れない将来の成長可能性も重視。

4　成長分野（日本成長戦略17分野からの再構築）

日本成長戦略　17の戦略分野

(1) ＡＩ・半導体
(2) デジタル・サイバーセキュリティ
(3) 情報通信
(4) 量子
(5) 防衛産業
(6) 航空・宇宙
(7) 海洋
(8) 造船
(9) マテリアル（重要鉱物・部素材）
(10) 合成生物学・バイオ
(11) 創薬・先端医療
(12) 資源・エネルギー安全保障・ＧＸ
(13) フュージョンエネルギー
(14) 防災・国土強靭化
(15) 港湾ロジスティクス
(16) フードテック
(17) コンテンツ

５つの基本的視点と**データ**に基づき

検証・再構築

本県の成長分野（16分野）

1	半導体関連産業	9	農業
2	ＩＴ産業	10	林業
3	自動車関連産業	11	水産業
4	造船業	12	建設業
5	医療機器等関連産業	13	医療・福祉
6	加速器関連産業	14	教育
7	宇宙産業	15	文化・観光関連産業
8	再生可能エネルギー関連産業	16	地域密着型地場産業

5　成長分野と分野横断的方策

16の成長分野

1	半導体関連産業	7	宇宙産業	13	医療・福祉
2	ＩＴ産業	8	再生可能エネルギー関連産業	14	教育
3	自動車関連産業	9	農業	15	文化・観光関連産業
4	造船業	10	林業	16	地域密着型地場産業
5	医療機器等関連産業	11	水産業		
6	加速器関連産業	12	建設業		

分野横断で成長を加速

３つの分野横断的方策

①ＡＸの展開

現場の知識・技能とＡＩを結び付け、付加価値創出力を高める。

②人材育成

技術の変化に対応する学び、能力発揮、地域の技能継承を進める。

③スタートアップ・エコシステムの形成

技術や地域資源を事業化し、成果を県内取引、仕事、次の投資へ広げる。

成長分野ごとの道筋

① 現在の役割・強みを生かす

産業基盤・技術・人材、域外需要の取込み、県内の仕事・所得、県民生活を支える役割を推進。

② 将来の成長可能性を引き出す

国の成長政策や技術・市場の変化と、県内企業・人材・地域資源を結び、新たな取引・製品・サービス・事業へ展開。

③ 人・地域への成果につなげる

所得、学び、働きがい、自然・地域資源の継承、安心な暮らしへ成果をつなげる。

16の成長分野を、分野ごとの取組と３つの分野横断的方策で伸ばし、その成果を、働く人の学び、所得、働きがい、暮らしの向上につなげる

【参考】成長分野と関連する主な産業区分の状況

成長分野	関連する主な産業区分	修正特化係数	純移輸出額（億円）	付加価値構成比（%） 岩手県（全国）	労働生産性（百万円／人） 岩手県（全国）	雇用者所得構成比（%） 岩手県（全国）
①半導体関連産業（デバイス）	電子部品・デバイス	**1.20**	**461**	4.2（4.9）★	6.3（16.4）	1.2（1.3）
①半導体関連産業（製造装置） ⑤医療機器等関連産業	はん用・生産用・業務用機械	**2.02**	**2,547**	**16.4（12.1）★**	**14.0（13.2）**	**4.4（3.2）**
②ＩＴ産業	情報通信業	0.50	▲1,930	3.2（6.7）	**15.4（13.8）**	2.4（5.0）
③自動車関連産業 ④造船業	輸送用機械	0.96	**124**	6.1（10.1）★	10.9（13.2）	2.0（3.1）
⑥加速器関連産業 ⑦宇宙産業	（単一の区分なし）	–	–	–	–	–
⑧再生可能エネルギー関連産業	電気業	0.57	▲905	**1.1（1.0）**	29.3（33.2）	**0.7（0.5）**
⑨農業	農業	**2.86**	**768**	**8.3（2.8）★**	2.2（2.6）	**1.7（0.6）**
⑩林業	林業	**5.18**	**78**	**1.1（0.2）★**	**5.1（4.7）**	**0.16（0.02）**
⑪水産業	水産業	**3.26**	**184**	**1.7（0.5）★**	5.3（5.5）	**0.3（0.1）**
⑫建設業	建設業	**1.44**	▲932	**26.3（20.7）★**	6.2（7.2）	**10.6（7.9）**
⑬医療・福祉	保健衛生・社会事業	**1.22**	▲1,361	**13.3（11.2）**	5.2（5.9）	**15.2（13.2）**
⑭教育	教育	**1.38**	▲411	**6.2（4.7）**	**8.9（8.8）**	**5.9（4.7）**
⑮文化・観光関連産業	宿泊・飲食サービス業	**1.05**	▲131	**2.3（2.1）**	2.5（2.7）	1.9（2.0）
⑯地場産業（食料品）	食料品	**1.25**	▲328	**10.0（8.6）★**	6.2（8.8）	**2.4（2.0）**
⑯地場産業（繊製）	繊維製品	0.53	▲354	0.7（0.8）★	1.9（3.7）	**0.29（0.27）**
⑯地場産業（工芸）	（単一の区分なし）	–	–	–	–	–

注１　黄色着色：修正特化係数が１を上回る、純移輸出額がプラス、又は岩手県の値が全国以上
注２　付加価値構成比：★付きの産業は、第１次・第２次産業の合計に占める割合。それ以外は、第３次産業の合計に占める割合。
注３　雇用者所得構成比のうち、林業及び繊維製品は、小数第１位までの表示では全国との大小関係が判別できない又は値が0.0となるため、小数第２位まで表示している。

【備考】環境省・株式会社価値総合研究所「地域経済循環分析ツール（2022年版）」を用いて岩手県が作成。成長分野と産業区分は完全には一致しない。

6　「16の成長分野」（1/2）

1　半導体関連産業

ＡＩ等の普及で世界の半導体市場は拡大が見込まれ、キオクシア北上工場第３製造棟は2029年度中の稼働開始を目指す。国と県の計画を連動させ、いわて半導体関連人材育成施設（Ｉ－ＳＰＡＲＫ）等で人材を育成し、国内有数の半導体関連産業クラスター形成を目指す。

2　ＩＴ産業

ものづくり産業等とＩＴ企業の連携でＡＩ・ロボット等の活用が進み、県内企業の生産性・付加価値向上の加速が見込まれる。企業誘致と他産業との連携を進め、新たな製品・サービスの創出と県外市場への展開により、ＩＴ産業の更なる成長を目指す。

3　自動車関連産業

県の地域産業クラスター計画では2036年度までに付加価値増加額455億円を掲げ、ＧＸ・ＤＸ・ＡＸへの対応を進めることにより取引拡大が見込まれる。トヨタ自動車の重要な生産拠点として、国内有数の強靭な自動車関連産業クラスターの形成を目指す。

4　造船業

脱炭素化・デジタル化を背景に、ゼロエミッション船や自動運航船など次世代船舶の需要拡大が見込まれる。県内企業の建造・修理・加工等の技術を生かし、次世代船舶分野への参入と取引拡大を図り、国民生活等を支える海洋産業への貢献を目指す。

5　医療機器等関連産業

医療機器等の世界市場は拡大が見込まれ、県央地域では研究開発型企業群と岩手医科大学の連携が加速。国内でも希有な研究開発型産業クラスターを形成し、岩手発の医療機器で世界の医療と健康への貢献を目指す。

6　加速器関連産業

加速器関連技術は、国の17の戦略分野の多くを支える共通基盤技術であり、各分野の成長に伴う市場拡大が見込まれる。「いわて加速器関連産業研究会」を核に、県内企業の参入と受注拡大を進め、産業集積の形成と将来のＩＬＣ受入れに向けた基盤強化を目指す。

7　宇宙産業

世界的な宇宙市場の拡大と宇宙戦略基金の創設で、本県のものづくり技術を生かした宇宙関連分野への参入が期待される。国やＪＡＸＡ等との連携で県内企業の取引拡大や関連企業の立地を進め、沿岸地域から県内全域への波及を目指す。

8　再生可能エネルギー関連産業

陸上風力と地熱の推定利用可能量は全国２位、洋上風力は６位で、製造・建設・保守等の需要創出や脱炭素型の企業立地が見込まれる。洋上風力等で県内企業の参入と地域内サプライチェーン形成を進め、電力と収益の地域内循環を目指す。

6　「16の成長分野」（2/2）

9 農業

高温登熟耐性品種やスマート農業で水稲は国内トップクラスの産地へと発展し、ＡＩ等を活用した園芸や資源循環型畜産も成長が見込まれる。県オリジナル品種や「いわて牛」の増産、輸出拡大で、所得向上と地域経済の拡大を目指す。

10 林業

中大規模建築物の木造化や木質系新素材の活用等で、全国有数のアカマツ・カラマツ等の森林資源を生かした付加価値の創出が期待される。ＩＣＴやＡＩ等のスマート林業と「いわて広葉樹ブランド」の確立等で、「高付加価値木材産業県」への転換を目指す。

11 水産業

漁獲量全国２位のウニや、冷涼な海水温を生かしたサケ・マス類の海面養殖で、増産と所得拡大が見込まれる。水中ロボット等のスマート水産業やウニ等の陸上養殖、沖合でのサケ・マス類海面養殖技術の導入で、収益性の高い水産業を目指す。

12 建設業

インフラ老朽化対策や北上川バレーを中心とした民間投資の拡大に加え、ＡＩやＡＸ等による生産性向上で多様な人材の活躍が見込まれる。ＩＣＴ施工や生成ＡＩ等による建設ＤＸを推進し、「地域の守り手」として各成長分野とともに発展を目指す。

13 医療・福祉

手術支援ロボットやＡＩ画像診断等の導入で医療水準が高まり、介護テクノロジーや保育ＤＸで働く環境の改善が見込まれる。人材の養成・定着と遠隔医療の活用、処遇改善で、県民の生命と健康を守る好循環を目指す。

14 教育

探究的な学びや世界水準のハロウインターナショナルスクール安比ジャパン等で、地域を越えた学びが広がる。先端設備での研修環境を整え、岩手・世界で活躍するグローカル人材を育成し、次の成長を生む好循環を目指す。

15 文化・観光関連産業

３つの世界遺産やみちのく潮風トレイル等の地域資源とマンガ等のコンテンツを結び付け、観光消費の拡大と広域周遊の促進が見込まれる。観光データを活用した戦略的プロモーションと外国語対応の強化で、国内外から選ばれる持続可能な観光を目指す。

16 地域密着型地場産業

和食や日本の伝統文化への関心の高まり、デジタル技術やＡＩ等の活用により、工芸品、食品及び県産酒では海外需要拡大が、縫製業では新たな事業への展開が期待される。体験型ＰＲや観光との連携、海外展開を進め、世界に開かれた地域産業としての発展を目指す。

7　「３つの分野横断的方策」

分野横断的方策及びその背景

変化の激しい社会経済情勢の下、人と産業がともに成長するには、新たな視点からの方策が不可欠

▶ 労働生産性の向上

生産年齢人口は2050年に約４割減少の推計。ＡＩ時代の到来はイノベーションの好機。

▶ 人材の育成

仕事を通じた学びと働きがいが成長の源。ＡＩ時代にあっても、人が仕事とともに成長できる産業分野が岩手にはある。

▶ イノベーションの創出

既存事業の維持だけでは成長は続かない。新事業の成果を地域に広げ、再投資する循環が必要。

①ＡＸの展開

ＡＩで、人の力と仕事の価値を高める

- 現場の知識・技能とＡＩを結び付ける
- 業務の進め方等を見直し、創意工夫を要する仕事に力を注ぐ
- 効率化を製品・サービスの変革へ広げる
- 成果を所得・処遇・働きがいへ還元する

②人材育成

仕事の中に学びをつくり、能力を発揮する

- 人材を、不足する労働力として捉えない
- 自ら考え、挑戦し、誇りを持って働く人を後押しする
- 学校から就業後の学び直しまでつなぐ
- 地域で培われた技能を次世代へ継承する
- 発揮した力を所得・働きがい・次の学びへ

③スタートアップ・エコシステムの形成

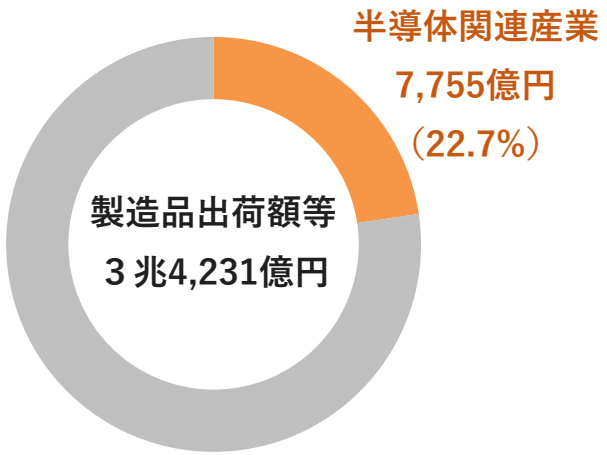
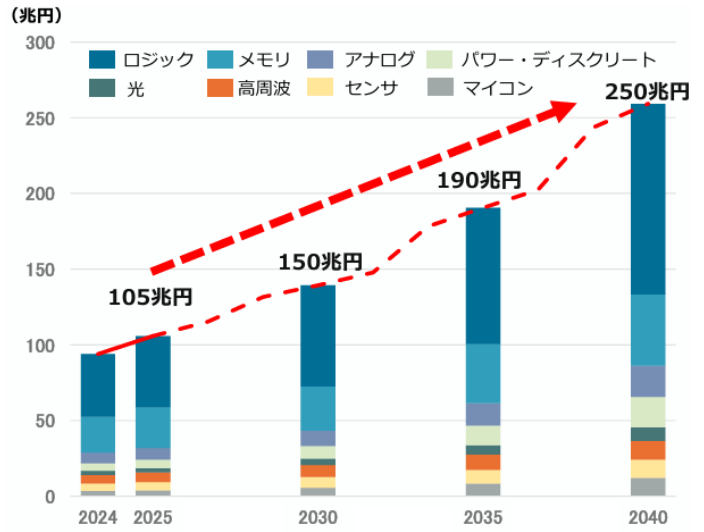
新しい発想を、事業と市場につなげる

- 地域課題や研究成果、地域資源を事業化
- 新規創業に加え、既存企業の新事業展開も後押しする
- 企業、大学、金融機関、支援機関等を接続
- 事業化・市場展開をつなぎ、成果を再投資

３つの方策を成長の推進力として16の成長分野に横断的に展開し、
生産性・人材・新事業の力で、成長を加速

8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

1　半導体関連産業

成長の可能性	・ キオクシア株式会社が北上工場第３製造棟の2029年度中の稼働開始を目指すなど、県内で新たな投資が具体化。 ・ 国と県のクラスター計画の連動により、産業用地等の整備やI-SPARKを核とする人材育成が進み、県内企業の取引が拡大する見込み。
成長の道筋	・ 立地企業と県内企業のマッチングや技術指導・設備投資への支援を通じ、国内有数の半導体関連産業クラスターの形成。 ・ I-SPARKの機能強化・拡大を含む新たな人材育成施設の整備と、高校・大学・企業等の連携による半導体製造や設備保全を実践的に学ぶ機会の拡大。
データ	県内の製造品出荷額等に占める「半導体関連産業」の金額・割合（2024年）  【備考】総務省・経済産業省「2025年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」を基に作成。電子部品・デバイス・電子回路製造業及び半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置製造業の製造品出荷額等の合計。
	世界の半導体市場規模の見通し（2024～2040年）  【備考】経済産業省「第15回半導体・デジタル産業戦略検討会議」資料（2026年3月）による。WSTS 2025年秋季予測等を基に1ドル＝150円で試算。生産額ベース。

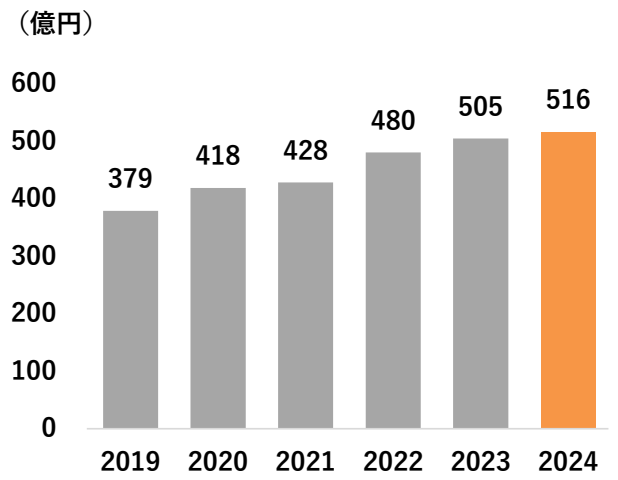
8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

◎　２　ＩＴ産業

成長の可能性	・ ものづくり、農林水産業、建設、医療・福祉、観光等でデジタル技術の活用が広がり、県内の仕事や暮らしを変える動きが拡大。 ・ ＩＴ企業との連携によるＡＩ・ロボット等の活用で生産性・付加価値向上が加速し、新たな市場を切り拓く製品・サービスの創出や県外展開の見込み。
成長の道筋	・ ものづくり産業とＩＴ企業の連携によるＡＩ・ロボット等の活用、デジタル人材・高度専門人材の育成・確保で、成長力と競争力を強化。 ・ ＩＴ企業の誘致、県内ＩＴ企業間の協業、ものづくり産業をはじめとする他産業との連携による新たな製品・サービス創出と県外市場への展開。

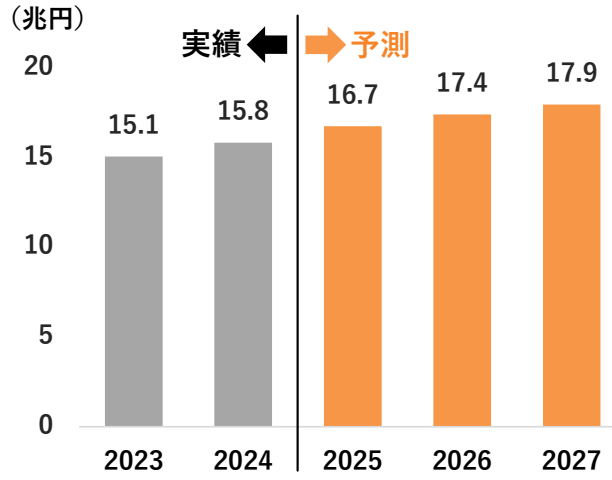
データ

県内IT産業の売上高の推移(2019~2024年)



【備考】2021年は総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」の情報サービス業及びインターネット付随サービス業の計、それ以外の年は総務省・経済産業省「経済構造実態調査(産業横断調査)」の情報通信業の値を基に作成。

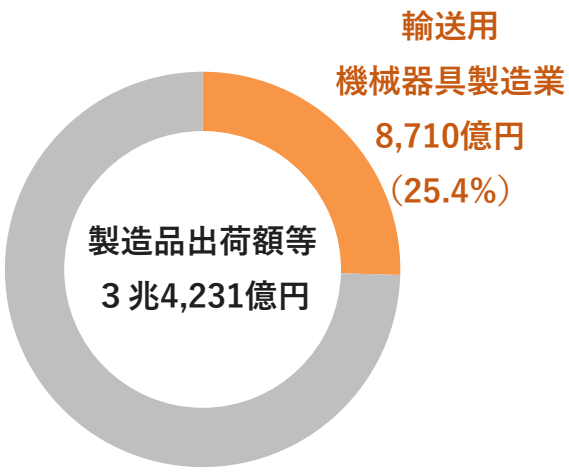
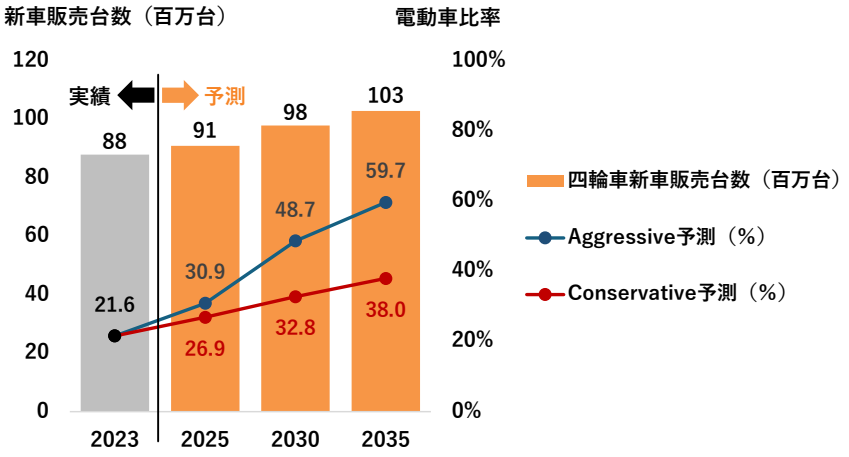
国内民間IT市場の規模(2023~2027年度)



【備考】株式会社矢野経済研究所「国内企業のIT投資に関する調査(2025年)」(2025年12月1日発表)を基に作成。2025年度以降は予測値。会計年度かつIT投資額ベース。民間IT市場には、ハードウェア、ソフトウェア、サービス等を含み、公共分野(官公庁や自治体)や民間小規模事業者によるIT投資を対象としない。

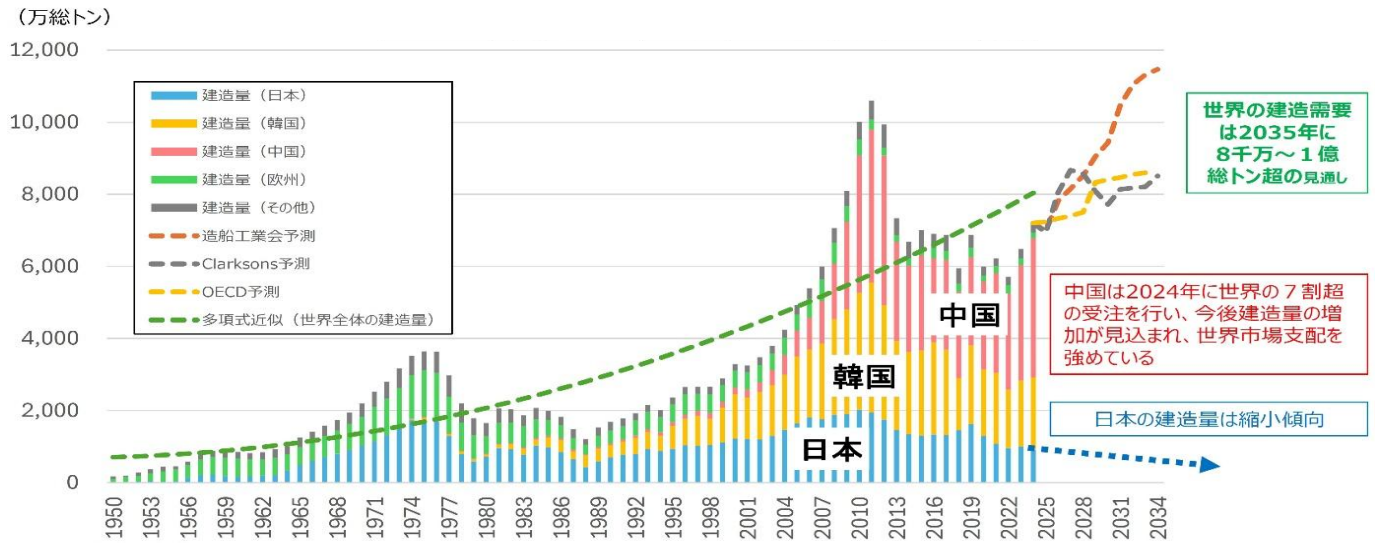
8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

◎　3　自動車関連産業

成長の可能性	・ 完成車生産を核に高い品質と生産技術を有するサプライチェーンが構築され、電動化やＧＸ・ＤＸ・ＡＸ等への投資により更なる取引拡大の見込み。 ・ 自動車製造に加え、モータースポーツによるクルマファン拡大などの新たな価値創出、モビリティによる地域課題の解決が期待。
成長の道筋	・ 完成車工場と関連企業群を核に電動化、ＧＸ、ＤＸ、ＡＸ等への設備投資と人材育成、産学共同研究やＡＩ・ＤＸ活用等による地場企業の取引拡大。 ・ 異業種連携による移動の楽しさづくりなどの新たな価値創出や、自動運転等の社会実装を目指したフィールド提供等による地域課題の解決。
データ	県内の製造品出荷額等に占める「輸送用機械器具製造業」の金額・割合（2024年）  【備考】総務省・経済産業省「2025年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」による。
	世界の新車販売台数及びこれに占める電動車比率の予測（2023～2035年）  【備考】株式会社矢野経済研究所「電動四輪車の世界市場に関する調査（2025年）」（2025年5月1日発表）を基に作成。2023年実績値（販売台数ベース）は、各国工業会データを基にした同研究所による推計値。2025年以降（予測）は、同研究所による推計値。

8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

◎ 4　造船業

成長の可能性	・ 世界的な海上輸送量の増加や脱炭素化・デジタル化を背景とした次世代船舶の需要増大により、県内企業の受注拡大へとつながる好機。 ・ ゼロエミッション船、自動運航船、洋上風力発電関連船など、県内企業が培った建造技術等を生かした次世代船舶市場への参入や受注拡大の機会。
成長の道筋	・ 造船企業と港湾、物流、エネルギー等の関係者との連携によるサプライチェーン強化や次世代船舶分野への参入、県内企業の付加価値向上。 ・ 造船関連産業の持続的な成長による、若者や高度人材にとって魅力ある産業基盤の形成と地域経済の好循環。
データ	**世界の船舶建造量実績と需要見通し(1950~2034年)**  【備考】国土交通省海事局船舶産業課「造船業の現況と造船業再生ロードマップについて」(2026年1月)による。

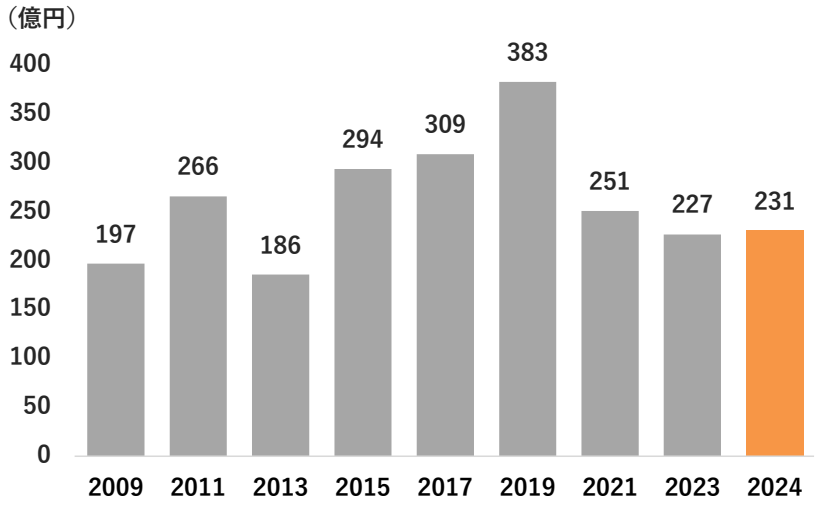
8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

◎ 5　医療機器等関連産業

成長の可能性	・ 高齢化や医療とデジタル技術の融合により世界市場の拡大が見込まれ、岩手発の製品・技術の国内外展開に期待。 ・ 県央地域の研究開発型企業群と岩手医科大学の連携加速により、事業化・量産・販売への発展と新たな企業の創出・誘致の見込み。
成長の道筋	・ 新たなイノベーション拠点機能の整備や岩手医科大学等との医工連携強化による、県内外の研究開発型企業の集積と成長の促進。 ・ 共同研究や専門人材の育成、学生と企業の交流を通じた、地域の産業人材の育成。

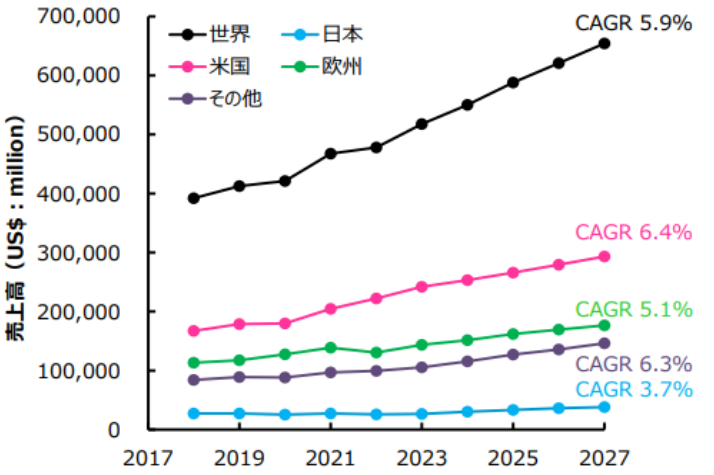
データ

本県の医療機器生産金額の推移（2009～2024年）



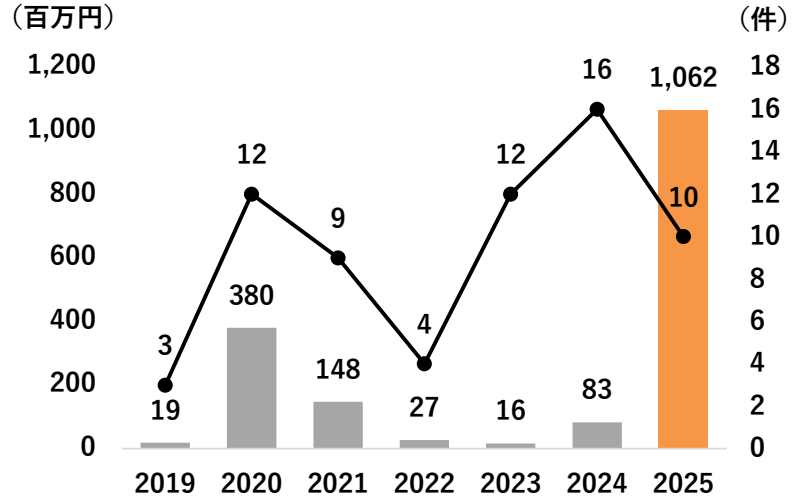
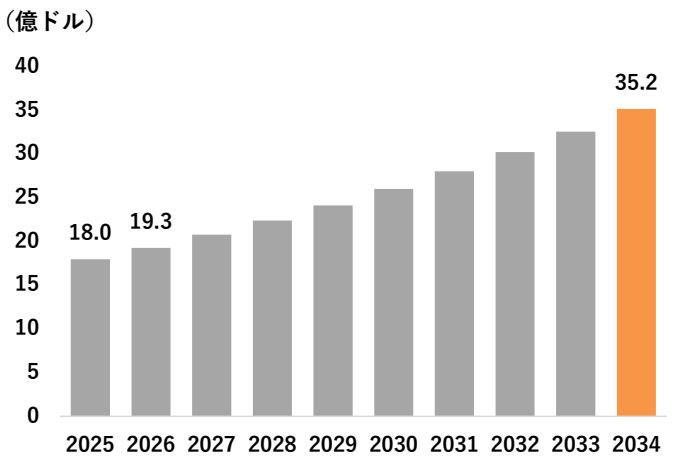
【備考】厚生労働省「薬事工業生産動態統計調査」を基に作成。

世界の医療機器売上高の推移と年平均成長率（CAGR）（2017～2027年）



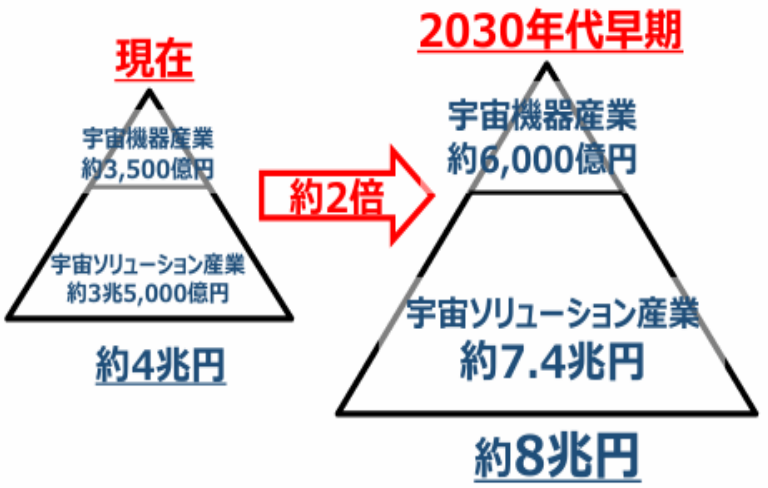
【備考】経済産業省「医療機器産業ビジョン2024」（2024年3月）による。2023年以降は予測値。

6　加速器関連産業

成長の可能性	・ 加速器関連技術は、国の成長戦略分野を支える共通基盤技術であり、市場拡大を見据え、精密加工、真空、制御等を担う企業群の形成を目指す。 ・ 受注を通じて技術力と品質保証能力を高め、幅広い成長分野への展開により、安定した事業基盤の形成が見込まれる。
成長の道筋	・ 研究施設の発注情報に基づくマッチング、共同研究、試作・評価、品質保証体制の強化など切れ目ない支援による参入企業と受注品目の拡大。 ・ 技術者の育成と複数企業の連携受注体制による継続的な取引への発展、ＩＬＣ受入れに向けた地域の研究・産業基盤の強化。
データ	加速器関連産業における県内企業の受注状況(2019～2025年度)  【備考】加速器コーディネーター(いわて産業振興センター)による県内企業ヒアリング結果。
	世界の加速器応用産業における主要市場(粒子線治療市場)の成長予測(2025～2034年)  【備考】Fortune Business Insights「粒子線治療市場の最新動向」(2026年9月)を基に作成。2027～2033年は数値が公表されていないため、2026～2034年の年平均成長率の予測値(7.78%)を用いて岩手県が推計して作図しており、当該期間の数値は表示していない。

8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

7　宇宙産業

成長の可能性	・ 宇宙輸送や小型衛星、衛星データ利活用などの世界的な市場拡大と宇宙戦略基金の創設を契機とした、多様な分野からの参入と新事業の創出が期待。 ・ 精密加工、金型、電子部品等のものづくり技術を生かした、人工衛星や地上支援設備等の宇宙関連分野への参入が見込まれる。
成長の道筋	・ 国やＪＡＸＡ、関係自治体、企業等との連携や県内での技術実証を契機とした、取引拡大と宇宙関連企業の立地、沿岸地域から県内全域への波及。 ・ 出前授業や体験イベント、研究者・技術者との交流機会の創出により、将来の宇宙産業に携わる人材を育成。
データ	**世界の宇宙産業の市場規模(2015~2039年)**  【備考】経済産業省「国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について」(2024年3月)を基に作成。	**日本の宇宙産業の市場規模**  【備考】内閣府「宇宙基本計画」(2023年6月)による。日本航空宇宙工業会「令和3年度宇宙産業データブック」等を基にした試算。

8　再生可能エネルギー関連産業

成長の可能性

- 全国有数の再生可能エネルギー資源を有し（陸上風力/地熱２位、洋上風力６位）、設備の製造・建設・運転保守や港湾物流等の需要創出が期待。
- 県内企業の参入による洋上風力の継続的受注に加え、ＧＸ対応を重視する取引先から選ばれる生産拠点として企業立地の見込み。

成長の道筋

- 発電事業者とのマッチング創出、設備投資・技術開発・人材育成の促進を通じた県内企業の参入と県内調達の拡大。
- 洋上風力の地域内サプライチェーン形成と、電力・収益の地域内循環による雇用・所得・暮らしの向上。

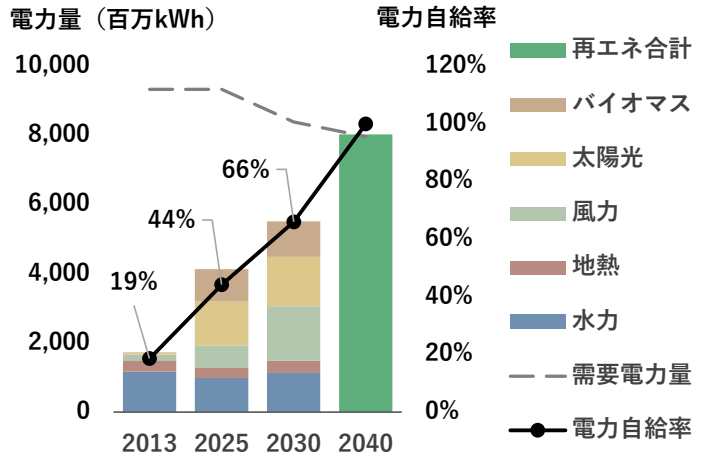
データ

本県の再生可能エネルギーの推定利用可能量

種別	推定利用可能量	全国順位	１位の都道府県
太陽光	7億kWh	29位	東京都
陸上風力	**209億kWh**	**2位**	北海道
洋上風力	**15億kWh**	**6位**	北海道
中小水力	4億kWh	17位	富山県
地熱	**11億kWh**	**2位**	北海道
計	**246億kWh**	**2位**	北海道

【備考】総務省「緑の分権改革推進会議第四分科会」資料（2011年3月）を基に作成。発電分のみ。洋上風力は着床式・浮体式、中小水力は河川・農業用水・上下水の合計。

本県の再生可能エネルギーによる発電電力量と電力自給率（2013～2040年度）



【備考】岩手県「第2次岩手県地球温暖化対策実行計画」を基に、2025年度の数値を追加して作成。2030年度以降は見込み。

◎ 9　農業

① 水稲

成長の可能性	・ 超多収品種と先端技術を融合し、「高品質・高収量・省力化」を実現する次世代型稲作への転換や、輸出市場の拡大と、米の機能性成分を活用した高付加価値化により、需要に応じて稼ぐ力を備えた持続可能な産地を形成。
成長の道筋	・ 無人自動運転等のフィジカルＡＩ技術や、人工衛星によるセンシング技術の活用と、機能性成分やグルテンフリー米粉の研究開発・商品化により、超省力化と海外も含めた市場競争力の強化を進め、次世代型稲作を実現。

② 園芸

成長の可能性	・ 環境制御技術やフィジカルＡＩ技術等を活用したスマート農業の普及による高品質かつ安定的な生産を促進。
成長の道筋	・ 沿岸地域における高度園芸施設コーストの形成、りんごの省力化栽培技術や自動選花機等のフィジカルＡＩ技術などの最先端技術を活用した生産現場のイノベーションにより、輸出拡大やインバウンド需要の取込みを促進。

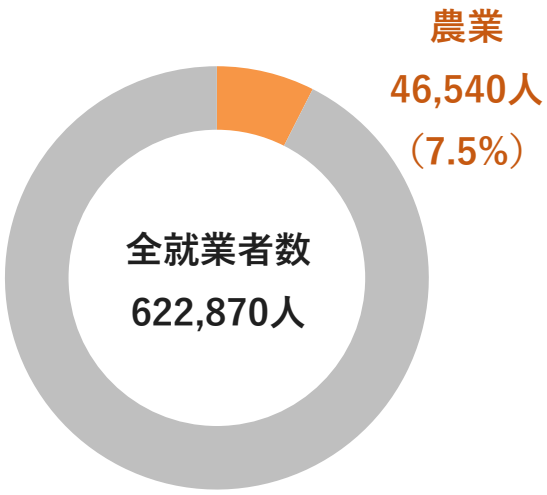
◎ 9　農業

③ 畜産

成長の可能性	・ 省人化・自動化による超高生産性とワークスタイルの変革を実現する次世代型畜産への転換や、ＡＩを活用した牛肉の「おいしさ」評価等による高付加価値化、全ての畜種の輸出認定施設を活用した輸出の促進。
成長の道筋	・ 全自動管理システムやロボット等の最先端技術を活用したスマート畜産の実装を進め、飛躍的な生産性向上を図るとともに、高付加価値化やブランド力の向上、輸出拡大を進め、国内外で評価される畜産産地を形成。

データ

県内就業者に占める「農業」の人数・割合（2023年度）



【備考】岩手県「令和5年度（2023年度）岩手県県民経済計算」による。就業地ベース。

食料自給率の上位10都道府県（2024年度）

順位	都道府県	食料自給率
1	北海道	227%
2	秋　田	221%
3	山　形	147%
4	青　森	126%
5	新　潟	120%
6	**岩　手**	**113%**
7	福　島	86%
8	佐　賀	86%
9	富　山	78%
10	鹿児島	78%

【備考】農林水産省「令和6年度（概算値）、令和5年度（確定値）都道府県別食料自給率等について」を基に作成。カロリーベース。

10　林業

成長の可能性	・全国トップクラスの森林資源を保有（森林面積２位）、中大規模建築物の木造化進展によるアカマツ・カラマツ材の需要拡大。 ・原木しいたけ、木炭、生漆の国内外での需要拡大や広葉樹の高付加価値化による所得拡大の見込み。
成長の道筋	・ＩＣＴやＡＩ、ドローン等を活用したスマート林業の実装、アカマツ・カラマツ等の加工・製品開発による「高付加価値木材産業県」への転換。 ・「いわて広葉樹ブランド」の確立や国内外への販路開拓・輸出、木質由来の新素材等による新産業創出と所得・働きがいの向上。

データ

林業産出額及び木材生産産出額の上位10都道府県(2024年)

（単位：千万円）

林業		
順位	都道府県	産出額
1	長野県	6,594
2	新潟県	4,961
3	北海道	4,076
4	宮崎県	2,875
5	**岩手県**	**1,853**
6	大分県	1,807
7	熊本県	1,629
8	福岡県	1,610
9	秋田県	1,570
10	福島県	1,297

木材		
順位	都道府県	産出額
1	北海道	3,190
2	宮崎県	2,350
3	熊本県	1,404
4	**岩手県**	**1,399**
5	大分県	1,229
6	秋田県	1,198
7	福島県	863
8	鹿児島県	804
9	青森県	777
10	岐阜県	732

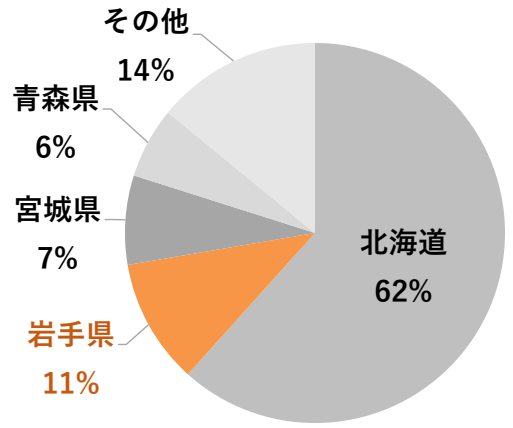
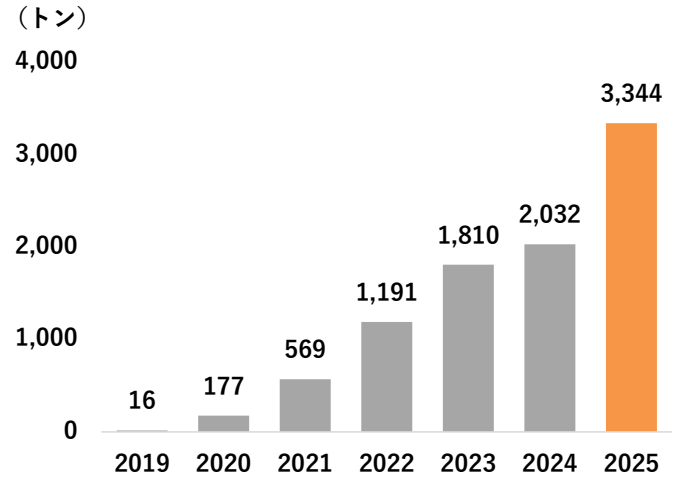
【備考】農林水産省「令和6年林業産出額」を基に作成。

森林面積、素材生産量及び生漆の生産量等

指標	全国順位	岩手県生産量	全国シェア	（参考）全国生産量
森林面積	2位	1,169 千ha	5%	25,025 千ha
素材生産量	5位	1,130 千㎥	6%	20,071 千㎥
うち広葉樹	3位	73 千㎥	6%	1,273 千㎥
生漆	1位	1,504 kg	80%	1,885 kg

【備考】林野庁「森林・林業統計要覧2025」、農林水産省「令和7年木材統計（概数値）」、林野庁「令和7年特用林産基礎資料」を基に作成。森林面積は2022年、素材生産量及び生漆は2025年の値。

11　水産業

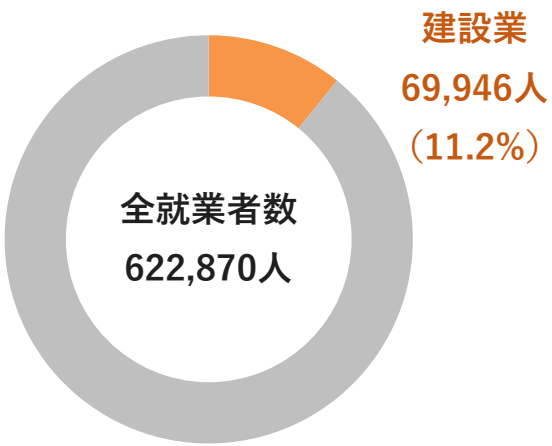
成長の可能性	・ 大型で強靱なサケ稚魚の放流など主要魚種の資源回復に加え、漁獲量全国２位のウニや増加資源の有効利用による所得の拡大。 ・ 静穏な漁場や冷涼な海水温を生かしたサケ・マス類の海面養殖の更なる増産と、新たな漁業・養殖業の導入による安定生産の見込み。
成長の道筋	・ スマート水産業の導入等によるウニの蓄養の高度化や陸上養殖など増加資源の有効利用による収益力の向上。 ・ サケ・マス類の種苗増産やブランド化、輸出強化による市場性の高い産地づくり。 ・ 「いわての海業」の発信や自走化による、沿岸地域の所得機会の拡大。
データ	ウニ類の都道府県別漁獲割合（2024年）  【備考】農林水産省「令和6年海面漁業生産統計調査」を基に作成。
	県内のサケ・マス類養殖生産量の推移（2019～2025年）  【備考】岩手県水産振興課調べ。

12　建設業

成長の可能性	・ＶＲ・ＡＲ技術、ＡＩ、ＡＸなどのデジタル技術の積極的な導入による更なる効率化・生産性向上と、多様な人材が希望を持って活躍できる環境の実現。 ・北上川バレーのものづくり集積など本県の「強み」を生かした民間投資の拡大と、インフラ老朽化対策による継続的な需要の創出。
成長の道筋	・建設ＤＸの更なる推進と、ＡＸを見据えた生成ＡＩ等の活用及び人材育成を通じた、建設生産プロセス全体の効率化と生産性向上。 ・「地域の守り手」としての役割に加え、誰もが働きやすい職場環境の整備による次世代を担う人材の確保・育成・定着の促進。

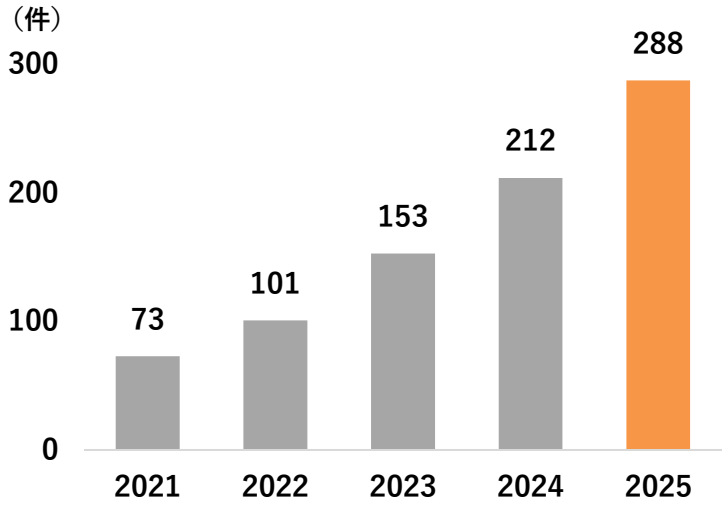
データ

県内就業者に占める「建設業」の人数・割合（2023年度）



【備考】岩手県「令和5年度（2023年度）岩手県県民経済計算」による。就業地ベース。

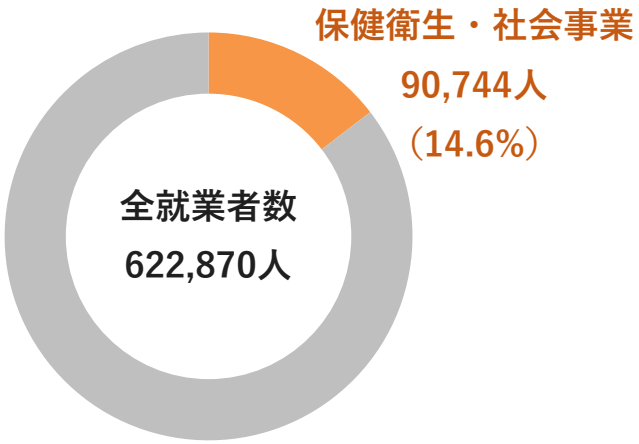
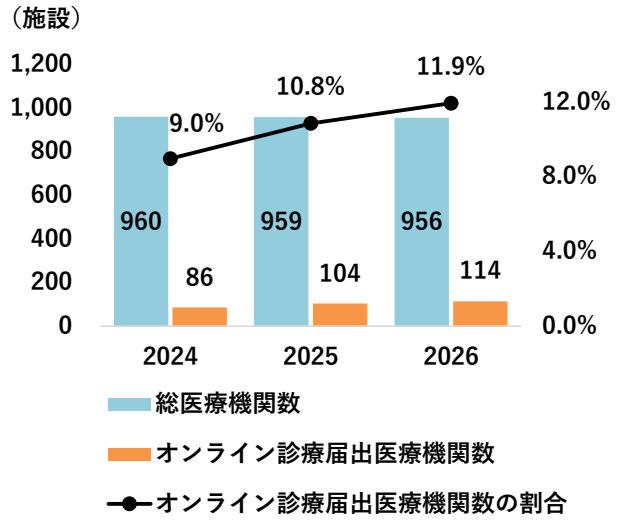
県営建設工事におけるICT活用工事の実施件数の推移（2021～2025年度）



【備考】岩手県建設技術振興課調べ。件数は累積値。

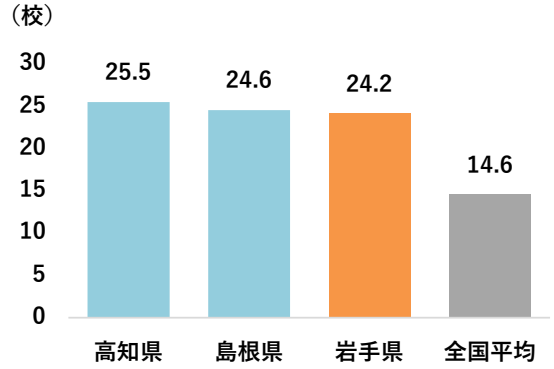
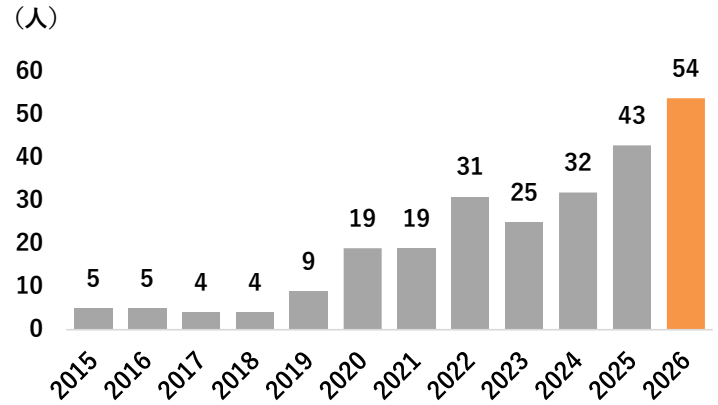
8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

13　医療・福祉

成長の可能性	・ 手術支援ロボットやＡＩ画像診断等の先進医療機器、介護テクノロジーや保育ＤＸによる医療水準と働く環境の向上。 ・ ＡＩが進展する中にあっても、人の生命や生活に直接関わる医療・福祉分野では、その仕事の価値が一層高まる見込み。
成長の道筋	・ 人材の養成から就業・定着までの切れ目ない支援と処遇改善による、県民の生命と健康を守り地域生活を支える好循環。 ・ 高度医療機器や遠隔医療設備、介護テクノロジー、保育ＩＣＴ等の導入による、サービスの質向上と負担軽減を両立。
データ	県内就業者に占める「保健衛生・社会事業」の人数・割合（2023年度）  【備考】岩手県「令和5年度（2023年度）岩手県県民経済計算」による。就業地ベース。
	県内の医療機関におけるオンライン診療届出割合（2024～2026年）  【備考】東北厚生局「施設基準の届出受理状況」、厚生労働省「医療施設動態調査」を基に作成。

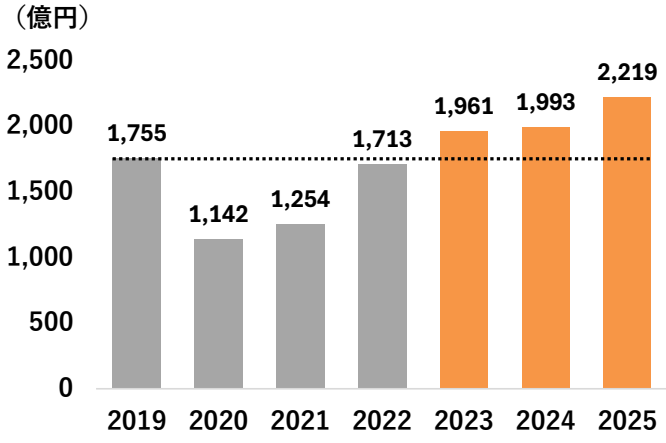
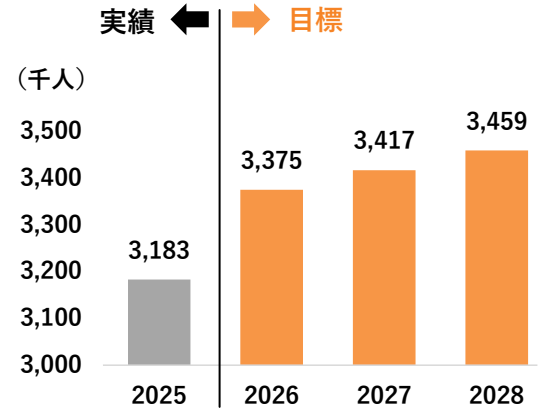
8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

14　教育

成長の可能性	・ 探究的・実践的な学びを深めている高等学校やハロウインターナショナルスクール安比ジャパン、新たな形態の教育機関など、学校や地域の境界を越えた学びの広がり。 ・ 職業能力開発施設やＩ－ＳＰＡＲＫ等の充実した学びの場を生かし、人と産業がともに成長するサイクルを通じた、持続可能な岩手の創造。
成長の道筋	・ 教育機関や企業等の連携と実機・先端設備を用いる研修環境の整備による、学校教育からリカレント教育までの実践的な学びの拡充。 ・ 専門高校での産業界等と連携した探究的・実践的な学びや、国際的視野、岩手の自然・文化・復興の歩み等の地域理解を併せ持つグローカル人材の育成。 ・ リカレント教育や生涯学習等の充実と、身に付けた力を地域や仕事で発揮し、個人の成長が産業と暮らしを支える好循環の構築。
データ	**15～17歳人口1万人当たり高等学校数の上位3県（2022年度）**  【備考】総務省「社会生活統計指標 2024」を基に作成。
	いわて留学による入学者数の推移（2015～2026年度）  【備考】岩手県学校教育室調べ。

8　「16の成長分野」における「成長の可能性」と「成長の道筋」

◎ 15　文化・観光関連産業

成長の可能性	・　３つの世界遺産、民俗芸能、温泉、みちのく潮風トレイル等の地域資源を物語と体験で結ぶ、付加価値の高い旅行商品の造成と広域周遊の推進。 ・　マンガ等のコンテンツを岩手の歴史や民話、自然、食などと組み合わせ、新たな体験価値による誘客と観光消費拡大の見込み。
成長の道筋	・　地域の歴史や文化を物語として体感できる機会の創出で来訪を促し、経済効果を文化資源の保存・継承に波及させる文化と観光の好循環の創出。 ・　多様な主体の連携によるデータを活用した情報発信・プロモーションを展開。 ・　作品の世界観と地域資源を結び付けた展示や体験プログラム、周遊企画の展開による観光消費の拡大と企画運営を担う人材の育成による持続的な観光地域づくり。
データ	本県の観光消費額の推移(2019~2025年)  【備考】岩手県「岩手県観光統計概要」による。
	本県の歴史・文化に関する観光客入込数の実績と目標(2025~2028年)  【備考】岩手県「岩手県観光統計概要」を基に作成。

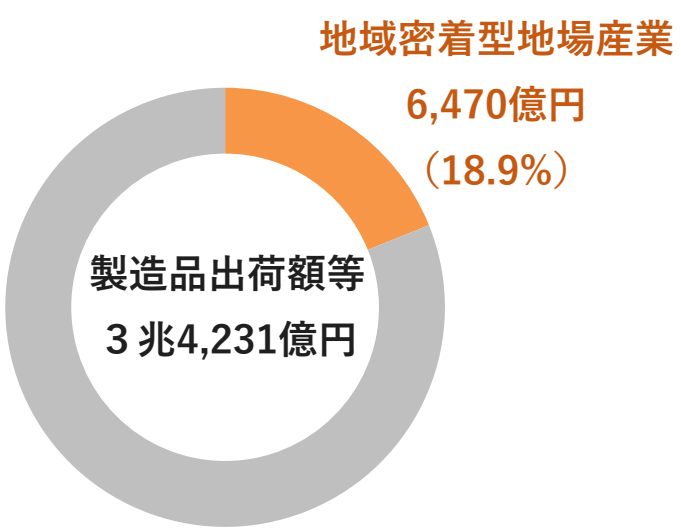
◎ 16　地域密着型地場産業

成長の可能性	**【工芸品】**デザイナーや異業種との連携による商品開発や国内外への販路拡大に加え、製作体験等の体験価値の提供による新たな需要の獲得。 **【食料品・酒】**清らかな水と豊かな農林水産物、醸造・加工技術を生かした高付加価値化や、体験型ＰＲ等による新たな観光資源の形成。 **【縫製業】**高品質・短納期、小ロット・多品種対応の強みを生かした受注拡大に加え、自社ブランド展開や消費者への直接販売による取引先と事業の幅の拡大。 ➡　和食や日本の伝統文化への関心の高まりを背景とした、海外市場での更なる需要拡大と新たな価値創出。
成長の道筋	**【工芸品】**製品の由来や作り手の技能の一体的発信とＥＣ・海外展開による販路拡大に加え、技術継承と人材育成による持続可能な産地形成。 **【食料品・酒】**事業者間・異業種間連携による商品開発と販路開拓に加え、コラボ商品や体験型ＰＲによる食文化・酒造りのブランド力向上。 **【縫製業】**工程改善やデジタル技術の活用、企業間連携による生産性と品質の向上、高付加価値型の受注構造への転換や、自社製品の企画・開発や販路開拓等に取り組む事業者の後押しによる収益力と所得の向上。

16　地域密着型地場産業

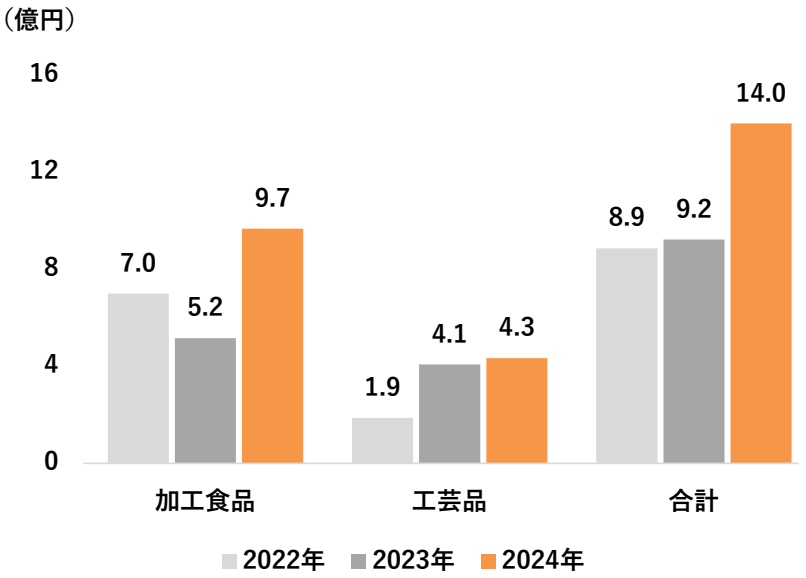
データ

県内の製造品出荷額等に占める「地域密着型地場産業」の金額・割合(2024年)



【備考】総務省・経済産業省「2025年経済構造実態調査(製造業事業所調査)」を基に作成。食料品製造業、清涼飲料製造業、酒類製造業、繊維工業、木材・木製品製造業、家具製造業、紙製容器製造業、骨材・石工品等製造業、銑鉄鋳物製造業、漆器製造業、生活雑貨品製造業の合計。

本県の地域密着型地場産業の輸出額の推移(2022～2024年)



【備考】岩手県・日本貿易振興機構(ジェトロ)岩手貿易情報センター「2024年岩手の貿易」(2025年11月発行)を基に作成。「加工食品」は、食料品製造業、清涼飲料製造業、酒類製造業の計。「工芸品」は、銑鉄鋳物製造業、木材・木製品製造業の計。端数処理により合計が一致しない場合がある。

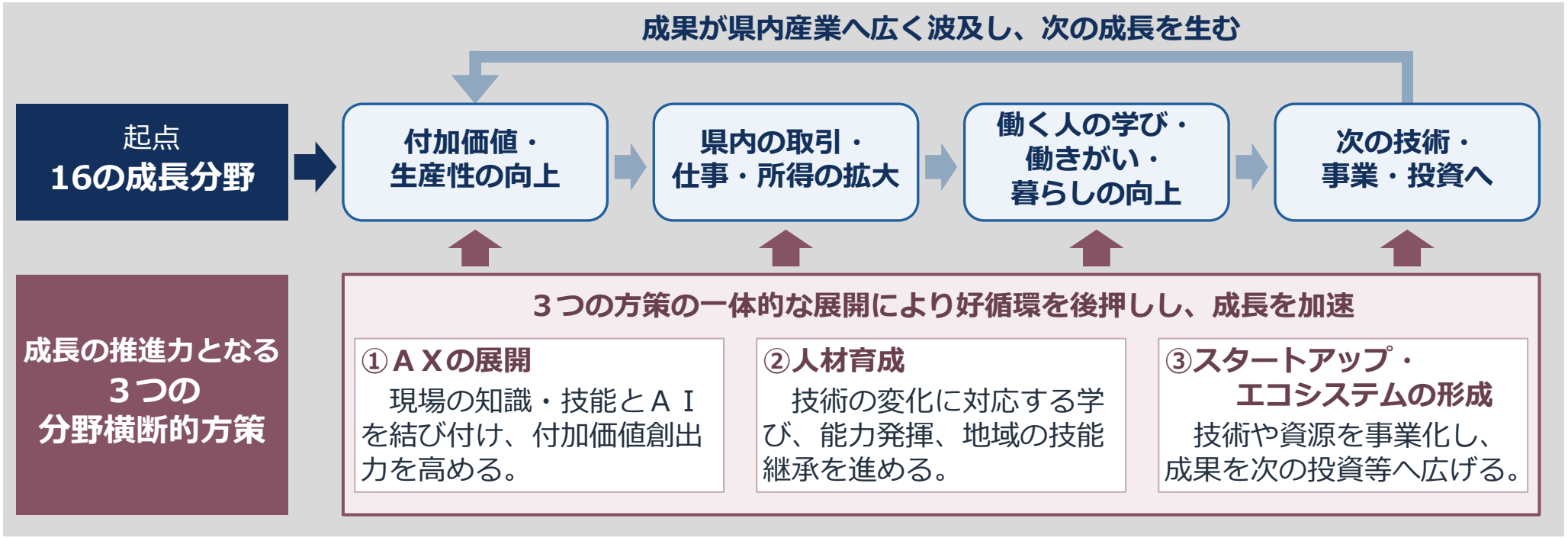
9　多様な主体による推進

将来像と成長の勝ち筋を共有し、県全体が一体となって好循環を生み出す

① 将来像を広く共有
　本戦略が示す岩手の将来像を、行政はもとより県民・企業・団体と共有

② 各セクターで成長の勝ち筋を共有
　各産業分野で付加価値・生産性を高め、所得向上と次の投資へつなぐ

③ 産学官金の連携、あらゆる主体の参画
　既存ネットワークや産業推進のための機構の取組を進化させ、成長を実現



目指す姿

「人と産業がともに成長する岩手」